

活動成果報告書

平成29年度（第21回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

大多喜町の子育て期における切れ目のない支援「赤ちゃん計測会」
～子育ての輪を広げてお母さんも赤ちゃんも元気に～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

大多喜町役場 健康福祉課 保健予防係
代表者：畔田 絵梨

勤務先：千葉県大多喜町役場

所 属：健康福祉課 保健予防係

所在地：〒298-0292

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93番地

TEL：0470-82-2168

FAX：0470-82-4461



【活動方針】

大多喜町の状況として、平成8年度から平成12年度にかけては年間80～100人程度の出生数があったが、近年は年間約50人程度にとどまっており顕著な減少傾向であると言える。合計特殊出生率においても、平成8年度から平成12年度にかけては1.5前後で推移していたが、近年は1.2前後であり、全国や千葉県を下回っている。妊産婦からは「近くに子どもがいるかわからない」との声も聞かれ、母親が孤立感を感じながら育児をするケースもあった。また町内に産科医療機関や助産施設がなく、専門的相談が可能な場所が限られているという現状がある。

そこで町内で子育てを行う母親が、子育て世代同士で繋がり合うことで孤立感を感じずに子育てが行えること、また子育てを行う上で困ったことや心配事があった場合、身近な相談場所として町の子育て支援事業を気軽に活用したり、専門職へ相談することができることを目指し、子育て環境を整えていく必要があると感じた。本事業開始前は保健師による新生児訪問後、生後4か月まで母子を対象とした事業を実施していなかったが、子育て期に切れ目のない支援を行うことを目的とし、平成26年度から保健師、助産師が連携し新規事業として「赤ちゃん計測会」を開始した。

【活動内容】

赤ちゃん計測会は生後1～3か月の乳児とその保護者を対象に実施している。外出の機会が少ない生後1～3か月の時期に敢えて設定し、母親が日頃の悩みや心配事を助産師等の専門職へ気軽に相談できる場を作り、安心して育児が行えるよう支援している。また、産後早期からの母親同士のネットワーク

活動成果報告書

構築を支援し、孤立化を予防することも大きな目的としている。内容も、人口規模が小さな町の特徴を活かし、アットホームな雰囲気となるよう工夫し、母親が日頃の育児を前向きに捉え、疲労感を癒したり、リフレッシュの場にもなることをねらいとして実施している。

～赤ちゃん計測会プログラム～

プログラム	内容
ストレッチタイム	理学療法士による産後の体のケア
体重・身長測定	母のストレッチ中に専門職が赤ちゃんの身長・体重を計測する
おしゃべりタイム	管理栄養士による手作りスイーツをお茶と共に楽しみながら座談会
子育て支援センターの紹介	子育て支援センター職員による紹介。活動内容が分かる媒体を使用したり、チラシの配布を行う
次回の母子保健事業のご案内	次回来所予定の母子保健事業(乳幼児相談)のご案内
体重測定結果の返却 専門職(主に助産師)が実施	計測の結果を母子手帳の成長曲線に記録し、一人ずつ日頃の様子を伺いながら結果を返却する



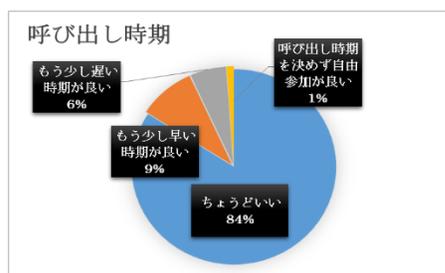
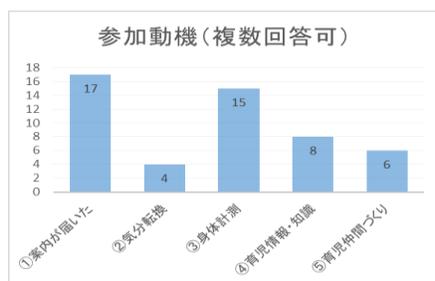
【活動成果】

1. 事業の評価 (参加率・満足度アンケートより)

事業開始からの参加率は平均して 67% であり、参加動機については「案内が届いたから」「身体計測をしたかったから」が高い結果となった。この結果から、生後 1～3 か月の時期の身体計測は母親たちのニーズがあるということが分かった。(左下グラフ参照)

また、赤ちゃん計測会に参加して良かったか、という問いに関しては事業開始以来、10 点中 9.4 点と参加者の満足度は高い。

実施時期についても「ちょうどよい」または「もう少し早い時期がよい」の声が大多数を占めており、母親は産後早期からの参加型事業のニーズをもっていることがわかったとともに、町ではそのニーズに近い事業を展開していると認識することができた。(右下グラフ参照)



活動成果報告書

2. 参加者に対する効果

助産師から個別に乳房ケアや授乳のアドバイスを受けたことで、その後の児の発育発達が順調に経過したケースもある。また、保健師が行う母子保健事業のみに留まらず、子育て支援センターや図書館等、母子に関する町全体の支援の情報を提供することで参加者が継続して支援を受けることができるきっかけ作りを行うことができています。

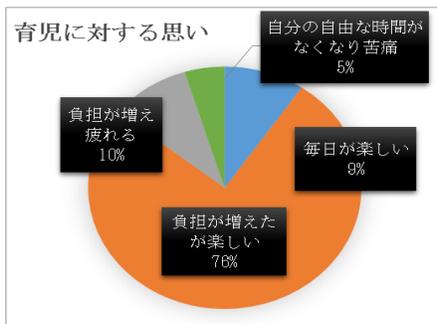
3. 町の母子に対するサービスの発展

赤ちゃん計測会の取り組みが始まって以来、子育て支援センターでも施設利用のデビューのためのプログラムが新たにスタートしたりと、町全体をとおして子育て支援の体制が広がり、充実してきている。子育て支援センターを窓口に、保育園とも密に連携を図ることができており、気になる子どもの情報交換や支援方法についても相談し合うことができており、個を大切に關わるができていていると感じる。

【今後の計画】

保健センターを会場とする事業として生後 1～3 か月の退院間もない乳児と保護者を対象とするのは他自治体ではなかなか行われていないと感じている。

また同アンケートを通して、育児に対する思いも聞き取りをしている。（※左下グラフ参照）産後の母親の 85%が育児に対して「毎日が楽しい」または「負担が増えたが楽しい」と前向きな回答をしているが、残りの 15%では負担感や苦痛を感じているという現状を把握することができた。これは退院後間もない母親にとって自然な感情であるかもしれないが、これらの現状を踏まえて今後も赤ちゃん計測会を運営していき、一人一人の心と体に寄り添った支援を行うことで、日頃の育児への頑張りを認め、前向きな感情を抱く母親が増えていくことを願っている。



また、平成30年度からは新たに「あかちゃん見守りサポーター」を募集し、母親が赤ちゃん計測会でより安心して過ごせるような環境づくりに努め、世代間交流も可能な事業に発展していけると良いと考えている。今後も大多喜町ならではの、保健師と参加者がお互いに顔の見える関係を強みにし、参加者のニーズに耳を傾けながら「切れ目のない支援」を充実させていきたい。また地域全体で赤ちゃんの健やかな成長を見守り、母親同士が子育ての輪を感じながら育児を楽しめるような町づくりを目指していきたい。